

平成23年度 公益財団法人信託資本財団 事業報告書

目次

ページ

I. 基本方針	2
II 事業内容	
1. 融資事業(公益目的事業1)	2
2. 知恵・知見の蓄積事業(公益目的事業2)	3
3. 助成事業(公益目的事業3)	3-4
4. 社会デザイン事業(収益事業1)	4-5
5. 社会企業家育成事業(収益事業2)	5
III. 管理部門	
1. 業務執行体制の整備と強化	5
IV. 収支予算書	5

【添付資料】

添付資料1 平成23年度 正味財産増減表 内訳

添付資料2 平成23年度 貸借対照表 内訳

I. 基本方針

当年度前期は、公益事業、収益事業共に、自然資本と社会関係資本の価値の質的向上と価値の量的増大につながる事業の支援を行うために、既存の4事業に加え、新たに助成事業(事業指定型)を加え、合計5事業を軸に事業を実施した。

(1) 社会的事業に対し融資を行う。

(2) 寄付者が特定の事業やテーマを指定して寄付をすることが出来る「事業指定助成」事業を行う。

(3) 融資事業から獲得できる人と人との関係性や知恵・知見を蓄積し、新たな人間関係を提供できる仕組みを構築する。

(4) 獲得した知見・知恵や人的関係を使って、企業や自治体が求める社会責任的 事業支援を行い、場合によっては事業化に携わる。

(5) 社会企業家育成の機能を構築する。

II. 事業報告

1. 融資事業(公益目的事業1)

当年度前期は、農林水産畜産業、環境、福祉、医療、教育、人権など、「信頼」関係の向上と増大につながる領域の事業に対しての融資事業を開始した。

■融資実績

当年度の融資実績は、通常融資(第3, 4期)を**4件**実施し、融資合計は、**500万円**であった。また、つなぎ融資は**6件**実施し、融資合計は**1,557万円**であった。したがって、当年度の融資事業実績の合計は**10件**となり、融資総額は**2,057万円**であった。

また、融資先からの返済に関して、当年度は遅延や貸倒等は発生せず、合資会社 neeth(300万円)、NPO 法人発達わんぱく会(100万円)、NPO 法人全国有機農業推進協議会(300万円)の返済が完了した。

「信用保証モデル融資」については、既存金融機関へ提案を行ったが実現には至らなかった。

(1) 通常融資

◆第3期融資

- ・募集期間:2011年2月1日～3月11日
- ・申し込み件数:5件
- ・第1次審査通過事業:3件
- ・融資審査会実施:2011年5月11日
- ・融資件数:1件(英田上山棚田団):50万円(10ヶ月)
- ・融資金額合計:50万円

◆第4期融資

- ・募集期間:2011年8月18日～9月30日
- ・申し込み件数:8件
- ・第1次審査通過事業:6件
- ・融資審査会実施:2011年12月7日
- ・融資件数:3件(NPO法人ノーベル、Rosy Future Products 株式会社、タンジェリン)
- ・**融資金額合計:450万円** ※契約手続き中のものを含む

【融資内訳】

	法人・団体名	融資金額	返済期間
①	NPO 法人ノーベル	300万円	25ヶ月
②	Rosy Future Products 株式会社	100万円	10ヶ月
③	タンジェリン	50万円	12ヶ月
	合計	450万円	

(2)つなぎ融資

- ・申し込み件数:8件
- ・融資件数:6件
- ・**融資金額合計:1,557万円** ※契約手続き中のものを含む

【融資内訳】

	法人・団体名	融資金額	返済時期等
①	NPO 法人発達わんぱく会	100万円	2011年9月返済済
②	東北コミュニティの未来・志縁プロジェクト	250万円	2012年5月返済予定
③	NPO 法人全国有機農業推進協議会	300万円	2011年11月返済済
④	NPO 法人発達わんぱく会	500万円	2012年6月返済予定
⑤	兵庫県有機農業生産出荷組合	237万円	2012年10月返済予定
⑥	株式会社オモレイ	170万円	2012年5月返済予定
	合計	1,557万円	

■融資原資状況

項目	金額
融資済み金額	2,178万円
融資原資残金額	547万円
融資原資合計	2,725万円

■融資事業対目標比率

	項目		年間目標	実績	達成率
(1)	通常融資	件数	10 件	4 件	40%
		金額	2,750 万円	500 万円	18%
(2)	つなぎ融資	件数	8 件	6 件	75%
		金額	2,275 万円	1,557 万円	68%
(3)	信用保証 モデル融資	件数	10 件	0 件	0%
		金額	2,750 万円	0 円	0%

2. 知恵・知見の蓄積事業(公益目的事業2)

当年度は、引き続き融資事業を通して提供される社会的事業に関する知恵・知見や人的ネットワークを蓄積・データベース化を行った。

課題であったコミュニティの活性化を目的とし、事業報告がアップされるごとに財団関係者および信頼責任者へ個別にメール案内等を行ったが、顕著な変化は認められなかった。

現在、「ありがと本プロジェクト」「ラブリースワン」において、Facebook での試験的なコミュニティ運営を行っており、その成果も踏まえて今後の SNS の運用を考える必要がある。

3. 助成事業(公益目的事業3)

当年度より、ファインドレイジング事業の一環として、寄付者が特定の事業やテーマを指定して寄付をすることが出来る「事業指定助成(共感助成)」を開始し、公益目的事業3として、内閣府より認定を取得した。また、3月11日に発生した「東日本大震災」の復興支援事業として「東日本大震災復興支援プロジェクト」を立ち上げ、共感助成の仕組みを活用した事業を行った。

(1) 共感助成(通常)

第1期助成対象6団体が決定し、6月より寄付の受付を開始し、3ヶ月毎に集まった寄付金を助成金として交付した。

【実施プロジェクトと寄付受付・助成金交付状況】

	法人・団体名	寄付受付金額	助成金交付済金額
①	NPO 法人アースウォッチ・ジャパン	32,668 円	19,914 円
②	NPO 法人キッズドア	96,182 円	46,738 円
③	NPO 法人シーズ 市民活動を支える制度をつくる会	275,076 円	180,282 円
④	一般社団法人 Japan Treasure Summit	5,002,175 円	4,251,219 円
⑤	NPO 法人ブラストビート	28,717 円	20,334 円
⑥	一般社団法人ピースボート 災害ボランティアセンター	5,108,874 円	4,558,061 円
	合計	10,543,692 円	9,076,548 円

(2) 東日本大震災復興支援プロジェクト

3月11日に発生した「東日本大震災」の復興支援のために「共感助成特別プロジェクトー東日本大震災復興支援プロジェクト」を実施した。

本プロジェクトへの寄付に関する手数料は、財団が一部または全額を上乗せ寄付(マッチング・ギフト)して実施した。こちらも通常助成同様、3ヶ月毎に集まった寄付金を助成金として交付した。

【実施プロジェクト】

① 震災復興リーダー支援基金(NPO 法人 ETIC.)

被災地で復興に携わるリーダー達の支援に対して助成する基金(ETIC との共同設置基金)

② ひと・つながり募金(アマタホールディング株式会社)

被災地で活動する NPO に対して助成する基金(アマタとの共同設置基金)。集まった寄付金の同額をアマタがマッチングギフト(2,148,934 円)

【助成先】

- ・NPO 法人 セカンドハーベスト・ジャパン
- ・日本の森バイオマスネットワーク(宮城県栗原市)

③ 東日本大震災子ども未来基金

東日本大震災によって、両親または どちらかの親をなくしたり、親が重度の障害を負ったりした小学生から高校生 までの児童・生徒が安心して学習を 続けられるように基金を設立し、支援を行う。

④ 震災復興リーダー支援基金【第2期】(NPO 法人 ETIC.)

被災地で、福祉・教育・コミュニティ再生や産業復興の新しい事業を立ち上げ復興にかけるリーダーの元に事業のスタートアップを加速させるサブリーダーを派遣、被災地で勉強会やリソースマッチング等事業推進のサポートも実施。(ETIC への助成プログラムとして実施)

⑤ 東大三四郎会復興支援ファンド

被災地復興支援活動に参加する学生に対する直接的な経済的支援を行う。学生による復興支援活動及びその運営組織「東大ー東北復興エイド」が支援先となる。

⑥ 気仙沼ふかひれブランドを守る会

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県気仙沼市のふかひれ加工業者の若手後継者が連携し世界的ブランドである「気仙沼のふかひれ」ブランドを守り、気仙沼とふかひれ業界の発展に寄与する。

⑦ビヨントゥモロー(一般財団法人教育支援グローバル基金)

東日本大震災によって被害を受けた地域の若者に対して、次世代を担うリーダーやスペシャリストとなる人材となるための支援プログラムを提供する。将来的には、世界各地の自然災害や戦争による孤児・遺児に対するリーダーシップ育成プログラムとしての展開を目指す。

⑧HOSP!大船渡応援プロジェクト

東日本大震災で被災した大船渡を復興するため、たまり場としてのコミュニティカフェを開業・運営する。大船渡再生に取り組んでいる企業や団体で構成する「大船渡応援団」の現地事務所であり、また、応援団と地元の人々との交流・活動の場でもある。大船渡応援団は4回のワークショップで復興のためのグランドデザインを作成しており、今後、このカフェを拠点にワークショップ等で地元との連携をより深め、大船渡復興のための事業を企画し、その実現を図っていく。

【実施プロジェクトと寄付受付・助成金交付状況】

	法人・団体名	寄付受付金額	助成金交付済金額
①	震災復興リーダー支援基金 (NPO 法人 ETIC.共同設置)	8,630,840 円	7,748,000 円
②	ひと・つながり募金 (アマタホールディング株式会社)	4,297,868 円	4,297,868 円
③	東日本大震災子ども未来基金	3,654,410 円	200,000 円
④	震災復興リーダー支援基金【第2期】(NPO 法人 ETIC.)	20,004,000 円	19,752,990 円
⑤	東大三四郎会復興支援ファンド	4,670,000 円	3,458,870 円
⑥	気仙沼ふかひれブランドを守る会	3,050,000 円	0 円
⑦	ビヨントゥモロー (一般財団法人教育支援グローバル基金)	130,000 円	0 円
⑧	HOSP!大船渡応援プロジェクト	0 円	0 円
	合計	44,437,118 円	35,457,728 円

■助成事業全体寄付受付・助成金交付状況

	法人・団体名	寄付受付金額	助成金交付済金額
(1)	共感助成(通常)	10,543,692 円	9,076,548 円
(2)	東日本大震災復興支援プロジェクト	44,437,118 円	35,457,728 円
	合計	54,980,810 円	44,534,276 円

■運営手数料内訳

【共感助成(通常)】

平成23年度事業報告書

	法人・団体名	運営手数料
①	NPO 法人アースウォッチ・ジャパン	6,778 円
②	NPO 法人キッズドア	12,784 円
③	NPO 法人シーズ市民活動を支える制度をつくる会	57,570 円
④	一般社団法人 Japan Treasure Summit	750,956 円
⑤	NPO 法人ブラストビート	5,383 円
⑥	一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター	507,551 円
	合計	1,341,022 円

【東日本大震災復興支援プロジェクト】

	法人・団体名	運営手数料
①	震災復興リーダー支援基金(NPO 法人 ETIC.共同設置)	0 円※
②	ひと・つながり募金(アマタホールディング株式会社)	0 円※
③	東日本大震災子ども未来基金	0 円※
④	震災復興リーダー支援基金【第2期】(NPO 法人 ETIC.)	251,010 円
⑤	東大三四郎会復興支援ファンド	611,130 円
⑥	気仙沼ふかひれブランドを守る会	0 円
⑦	ビヨンドトゥモロー(一般財団法人教育支援グローバル基金)	0 円
⑧	HOSP!大船渡応援プロジェクト	0 円
	合計	862,140 円

※震災発生直後の助成については手数料を全額財団が上乘せ寄付(マッチング・ギフト)をして実施した。

【運営手数料合計】

	法人・団体名	助成金交付済金額
(1)	共感助成(通常)	1,341,022 円
(2)	東日本大震災復興支援プロジェクト	862,140 円
	合計	2,203,162 円

■助成事業対目標比率

項目	年間目標	実績	達成率
助成金額	18,000,000 円	44,534,276 円	247%
寄付受付額	20,000,000 円	54,980,810 円	275%
運営手数料収入	2,000,000 円	2,203,162 円	110%

4. 社会デザイン事業(収益事業1)

当年度は、社会的事業企画・提案業務を行った。

(1) ラブリースワンプロジェクト

スワンベーカリーおよびスワンカフェで販売する商品のプロデュース企画の商品化を行った。福祉作業所で作ったチョコレートケーキを贈答用商品としてプロデュース。箱、装飾、リーフレット作成を全て福祉作業所をお願いすることで、「全て丁寧な手作り」と「ストーリー」を付加価値として、商品力を高めた。今回のプロジェクトは、ブランドコンセプト作り、商品設計、プロモーション戦略の立案まで全てを財団を含む「プロジェクトチーム」で対応することに挑戦した。12月31日現在合計826個受注済み(568,000円の売上)。

5. 社会企業家育成事業(収益事業2)

当年度は、外部団体の主催する講座での講師、シンポジウムへパネラーとして登壇、財団自身のシンポジウムの開催等を行った。

①ファンレイジング日本2011にブース出展(2011年2月5,6日)【対応:鴨崎】

②ワールドシフトフォーラム(2011年5月15日)にパネラーとして登壇【対応:鴨崎】

③NPO法人ETIC インパクトギャザリングで融資事業PR(2011年6月18日)【対応:鴨崎】

④財団法人ハイライフ研究所の「すごいぞ大人！」シリーズにゲスト出演。Webで映像配信(2011年7月15日)【対応:鴨崎】

⑤共感助成キックオフイベント【信頼資本財団主催】(2011年7月23日)

◆パネラー

①安田 重雄氏(特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン 事務局長)

②渡辺 由美子氏(特定非営利活動法人キッズドア 代表理事)

③池本 桂子氏(特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 事務局長)

④小野寺 達也氏(一般社団法人Japan Treasure Summit 事務局)

⑤松浦 貴昌氏(特定非営利活動法人ブラストビート 代表理事)

⑥吉岡 達也氏(ピースボート共同代表 PBV 専務理事)

◆モデレーター

熊野 英介(公益財団法人信頼資本財団理事長)

また、このイベントは入場無料の投げ銭方式で行われ、寄付が36,990円集まった。

⑥SBN(ソーシャルビジネスネットワーク)会議で共感助成を活用した震災復興支援の取り組みを紹介(2011年8月5日)【対応:鴨崎】

⑦VISIONS2011 基調講演(熊野理事長)、コミュニティ活性化ビジネスプラングランプリに審査員(鴨崎)として参加(2011年8月27日)

⑧all for one(ソフトバンク、ヤフー社員などが立ち上げた震災復興支援団体)のキックオフイベントに登壇(2011年8月31日)【対応:鴨崎】

⑨NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター「人を幸せに・地域を元気にするビジネス科」講師(2011年9月21日)【対応:鴨崎】

⑩婦人経友会にて講演(2011年9月27日)【対応:鴨崎】

⑪NPO 法人ネイチャリングプロジェクト「ソーシャルビジネス・スタッフ養成科」講師(2011年9月22日)【対応:鴨崎】

⑫協働ステーション中央「資金獲得講座」講師(2011年10月5,12日)【対応:鴨崎】

⑬信頼資本財団×立教大学 共催公開講座(10月23日 開催)

『信頼社会への挑戦』— 3.11の悲しみを乗り越えて、今、日本の社会を再構築する —

◆参加者:約150名

◆パネラー

①内山 節 氏(立教大学21世紀社会デザイン研究科・文学部教授)

②熊野 英介 氏(公益財団法人信頼資本財団理事長)

③中村 陽一 氏(立教大学21世紀社会デザイン研究科教授)

◆コーディネーター

石川 治江 氏(立教大学21世紀社会デザイン研究科教授/公益財団法人信頼資本財団理事)

6. メディア掲載等

①日経新聞夕刊(8月5日)「信頼資本と金融資本」で紹介(古在豊樹評議員)

②産経新聞(8月9日)にて、丸の内キッズフェスタで行われる「ありがとう本」の紹介

③静岡新聞(10月24日)、日経産業新聞(10月27日 21面)、日経 MJ(10月31日)にて、<ラブリースワン>ガトーショコラの紹介。

④【執筆】季刊まちづくり33号(学芸出版社)(2012年1月1日発行)の特別企画「公益活動を推進

する市民基金」に「信頼を経済社会の基盤にする信頼資本財団」という題で事務局長の鴨崎が寄稿。

Ⅲ. 管理部門

1. 業務執行体制の整備と強化

当年度はアルバイト2名の受け入れとインターン1名の受け入れを行った。

Ⅳ. 会計報告

会計報告内容は、添付資料 2,3「法人法で定める計算書類等」の通りである。

以上